

(電子メール施行)  
農技 第1028号  
平成31年4月12日

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

病虫害発生予察防除情報第2号を発表しました。

この冬が暖冬であったため、スクミリンゴガイの越冬量が例年より多くなっていると予想されます。昨年スクミリンゴガイの発生が確認された地域では、防除等のご指導をお願いします。

---

平成31年度 病虫害発生予察防除情報 第2号  
スクミリンゴガイの防除対策について

- |        |                    |
|--------|--------------------|
| 1 対象作物 | イネ                 |
| 2 害虫名  | スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ) |
| 3 対象地域 | 県南部 (特に播磨地域と淡路島)   |

4 スクミリンゴガイについて

- (1) スクミリンゴガイ(写真)は寒さに弱いため、越冬時に多くの個体が死亡する。暖冬の場合は死亡率が低く、その後の水稻で多発生する傾向がある。
- (2) 平成30年10月1日から翌31年3月31日(図:平成30年度)の平均気温は、過去10年間で最も高かった平成27-28年の同時期(図:平成27年度)に次いで高く、暖冬であった。暖冬明けにあたる平成28年度水稻では、県下11市町で本種による被害が発生しており、平成31年度水稻においても同様の事態が予想される。昨年秋に本種の生息を確認したほ場では、被害回避のため、移植期の防除対策に努める必要がある。
- (3) 本種は在来のタニシ類との見分けが難しいため、生息確認は卵塊(写真)の有無によって行うとよい。



写真 スクミリンゴガイ (左) と卵塊 (中央と右)

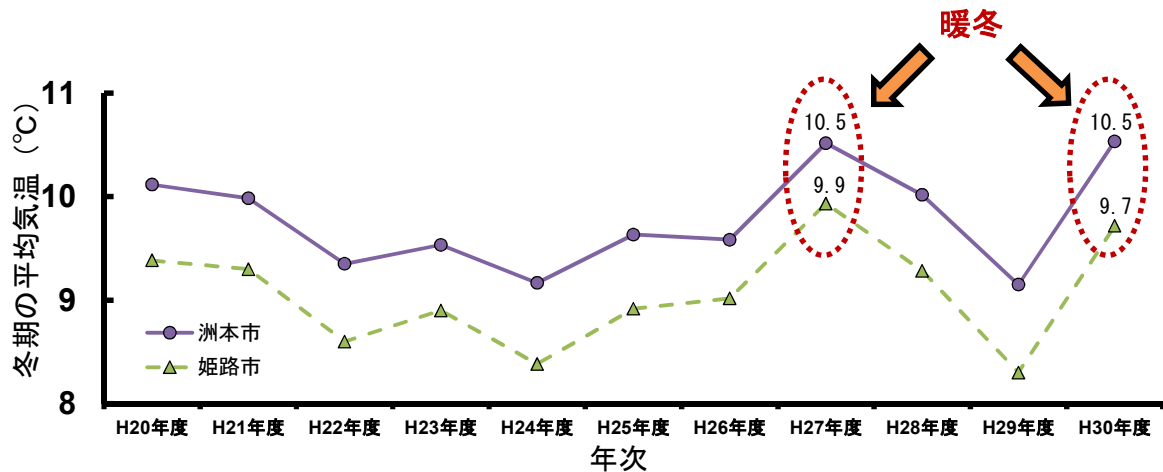


図 過去10年間の冬期(10月1日から3月31日)の平均気温(°C)  
気象庁のアメダス観測地点(姫路市と洲本市)より

## 5 防除対策

### (1) 耕種的・物理的防除

#### ① 中成苗の移植

スクミリンゴガイは移植直後の軟らかい部位を好んで食べるため、4葉期以上の中～成苗を植え付けることで被害回避につながる。

#### ② 水路からの侵入防止

取水口に9mm目合いの網(直播用には6mm程度)を設置し、用排水路からの貝の流入を防止する。田植え前の入水時から5葉期に達する移植後3週間までを設置期間とする。

#### ③ 貝の捕殺や殺卵

移植直後の食害を防ぐため、移植前～直後に貝を捕殺する。ジャガイモやナス、キャベツなどを水中に置くと貝が集まってくるため、効率的に捕殺できる。ただし、広東住血線虫が寄生している可能性があるため、ゴム手袋を着用し、素手では触らない。卵塊は押しつぶして処分する。

### (2) 化学的(薬剤)防除

#### ① 代かき前の石灰窒素施用(漏水田では使用しない)

代かき前の荒起こし後3～4日間、水深3～4cmの湛水状態を保って貝を活動状態にさせる。その後、粒状石灰窒素を施用し、3～4日間湛水状態を保って貝を致死させる。石灰窒素は魚毒性が高いため、石灰窒素を含んだ水を水路に流出させないこと。また、石灰窒素の分解過程で発生するシアナミドは、水稻に対して薬害があるため、施用から代かきまでは少なくとも7日間あけるとともに、周囲の移植が済んだほ場に流入しないように注意する。念のため、代かきから2～3日経過後に田植えを実施すること(シアナミドは土壌との接触

で分解が進む)。石灰窒素の施用により、ほ場内の窒素量が増加するため、基肥の窒素量を調整する。コシヒカリでは窒素過多による倒伏のおそれがあるため、石灰窒素は施用しない。

### ②本田施用

入水後、例年よりもスクミリンゴガイの発生が多いと判断された場合、本田防除を行う（要防除密度の目安：水稻移植後2週間以内に、見取りで穀高25mm以上の貝が1.5頭/m<sup>2</sup>以上で即時防除）。薬剤は湛水状態で散布し、3～4日間は落水やかけ流しはしない。また、漏水田での使用はさける。

### ③注意事項

薬剤防除に当たっては、必ず登録薬剤を使用し、使用時期や使用方法、使用量などの適用条件を守ること。

表 主な本田処理剤

薬剤名	主成分	備考
スクミノン、ジャンボたにしくん、メタレックスRG粒剤など	メタアルデヒド	殺貝効果
スクミンペイト3、スクミンブルー	磷酸第二鉄	殺貝効果
キタジンP粒剤	I B P	殺貝効果
スクミハンター	チオシクラム	食害防止効果
パダン粒剤4、パダンバッサ粒剤、ショウリョクS粒剤	カルタップ	食害防止効果
ルーバン粒剤、ショウリョクジャンボ	ベンスルタップ	食害防止効果

## 6 注意事項

耕耘機などの農機具に付着した泥と一緒に、スクミリンゴガイが他のほ場へ拡散する事例が報告されている。複数のほ場で同一の農機具を使用する場合は、未発生ほ場から作業を始め、発生ほ場で使用した後は、泥をよく落とし、他のほ場へ持ち込まないようにすること。

その他、詳しい生態については、農作物病害虫・雑草防除指導指針の参考資料

(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/hyogo>)

「3-3 スクミリンゴガイの生態と防除対策」を参照すること。

\*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページ

(<http://www.hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/>) に掲載しています。

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222